

Contents

02-05

インタビュー

1964年から2020年へ、 東京パラリンピックを考える

東京オリンピック・パラリンピック競技大会
組織委員会
パラリンピック統括室長 **中南久志** × 鹿島建設株式会社
田中啓之



公益財団法人
東京オリンピック・パラリンピック競技大会
組織委員会

パラリンピック統括室長

中南久志

Hisashi
Nakaminami

06-07 Projects

つむぐ歴史、つなぐ技術、むすぶ価値

高橋真理

10 Reports

特別講演会
第5回イブニングセミナー

小林香咲

清 衣里奈

08 Column

My Elder Colleague and My Younger
Colleague

杉原克郎・王尾英明

11 Opinion

アルジェリア東西高速道路工事を通じて
感じたこと

田代民治

09 Column

至福の時間

阪本未来子

12 Memorial

鈴木忠義先生の観光と景観

篠原 修

お知らせ

Information

訃報

当研究会のフェロー会員 鈴木忠義先生が、2月18日夕刻、93歳にて永眠されました。心から哀悼の意を表すとともに謹んでお知らせ申し上げます。

平成30年度総会の日程のお知らせ

総会

総会の日程が決まりましたので、お知らせします。

●日 時 4月20日(金) 18:00より

●場 所 TKP 渋谷カンファレンスセンター ホール3A
後日、皆様に正式な開催通知を差し上げますので、ご出欠の可否はそのあとにいただきます。多数のご参加を期待していますので、ご予約に組み入れていただきますようお願いいたします。

第1回 電力設備の南海トラフ地震への備え

イブニングセミナー

～浜岡原子力発電所の事例～

4月20日の総会に引き続いて、平成30年度第一回イブニングセミナーを開催します。講演者には中部電力(株)常務執行役員 服部邦男様を予定しています。イブニングセミナー後には懇親会を開催します。

第2回 『地震予知』から長期地震予測への転換

イブニングセミナー

～インフラ実務へのインプリケーション～(仮題)

5月31日(木)に、東京大学地震研究所地震予知研究センター長の平田直教授をお迎えしてイブニングセミナーを開催します。

春の見学会のお知らせ

春の見学会

6月中旬に、施工中の東京外環自動車道(東名JCT～大泉JCT)を見学する予定で、現在調整中です。

一般社団法人 計画・交通研究会

千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル5F-28
TEL 03-4334-8157 / FAX 03-4334-8158
E-Mail: jimukyoku@keikaku-kotsu.org
Homepage: <http://www.keikaku-kotsu.org/>

理事会

代表理事・会長 家田 仁
理事・副会長 屋井 鉄雄
理事・副会長 清水 英範
理事・幹事長 寺部慎太郎
理事・事務局長 高橋 祐治

経営委員会

委員 大嶋 匡博
城石 典明
廻 洋子
本号編集担当 齋藤 功次(広報部会員)

委員

大嶋 匡博
城石 典明
廻 洋子

Interview:

1964年から2020年へ、東京パラリンピックを考える

公益財団法人
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
パラリンピック統括室長

中南久志

聞き手

鹿島建設株式会社
土木営業本部 営業部長

田中啓之 (広報部会員)

平 昌 2018オリンピック・パラリンピックが幕を閉じ、東京2020オリンピック・パラリンピックまで2年半を切りました。前回1964年の東京パラリンピックは日本における障害者スポーツ大会の大きな転換となるものであり、その後、社会環境も大きく変化しています。次回の東京パラリンピックに必要なものは何か——組織委員会パラリンピック統括室長の中南久志氏にパラリンピックの意義や社会的役割、目指すべき姿について語っていただきました。〈本文中は敬称略〉

ともに生きる社会

——パラリンピックの意義とはどういうものになりますか？

中南 パラリンピックとは、「オリンピック (Olympic)」と並行して (Parallel) 開催される大会という意味の公式名称で、国際パラリンピック委員会 (IPC) は、パラリンピックを開催することによって、インクルーシブ・ソサエティ、すなわち、ともに生きる社会 (共生社会) を実現するきっかけにしてほしいと考えています。パラ

リンピックは障害のあるアスリートにとって世界最高レベルの競技大会であり、そのために社会へ与える影響も極めて大きいと考えられます。——パラリンピックの原点は？

中南 医師ルードウィッヒ・グットマン博士の提唱によって、第2次世界大戦時、イギリスのロンドン郊外にあるストック・マンデビル病院では負傷した退役軍人を対象に、スポ



中南久志 パラリンピック統括室長

ーツを通じたりハビリテーションと社会復帰を促すプログラムが行われていました。その一環で1948年に入院中の軍人たちが車椅子に乗って競技を行うアーチェリー大会が開かれました。これが「ストック・マンデビル大会」と言われ、現在のパラリンピックの原点となります。

イギリスという国が凄いのは、戦争をする時に、予め負傷兵の社会復帰プログラムを準備していたことです。ストック・マンデビル大会は毎年開催され、その後、海外からも選手が参加するなど徐々に規模も大きくなり、1952年には国際大会となりました。1960年ローマ大会からはオリンピック開催国で行われることが多くなりました。このローマ大会を第1回大会と数えています。当初、参加者は脊髄を損傷した車椅子利用者だけでしたが、スポーツ大会を通じて社会復帰していく選手が増えると、それ以外の障害を持った人々も参加するようになり、アスリ

“1964年東京パラリンピックによって、スポーツをきっかけに社会参画しようという大きな動きとなったんです——中南”

ートによる競技スポーツの大会へと発展してきました。現在の夏季大会には知的障害の方も一部競技に参加しています。

——オリンピックの直後に同じ場所で開催されるようになったのはいつからでしょうか。

中南 それほど昔のことではなく、1988年のソウル大会からはオリンピックの直後に同じ場所で開催されるようになりました。2000年のシドニー大会の時に、オリンピック開催国はオリンピック終了後、引き続いてパラリンピックを開催しなければならないという基本事項が国際オリンピック委員会 (IOC) と IPC で合意されました。それまでは、オリンピック開催国でパラリンピックが開催できず、ストック・マンデビル病院で開催したこともあったんです。

レガシーとなった1964年東京大会

——「パラリンピック」の名称は1964年東京大会から使われるようになったそうですね。

中南 現在は公式名称ですが、この大会で初めて「パラリンピック」という言葉が愛称として使われるようになりました。真相は分かりませんが、日本のメディアが使い始めた

も言われています。パラリンピックという呼称が一般化したことも、その後の障害者スポーツ大会のあり方を考える契機となり、大きな影響を与えることになったのだと思います。ただしこの時の大会は、オリンピックと違って規模も小さく、参加したのは21カ国378人、日本から参加した選手は53人でした。日本では脊髄損傷者以外の人々にも参加してもらいたいと考え、第1部は国際大会として脊髄損傷者の国際ストック・マンデビル大会、すなわちパラリンピックを開催し、その後、第2部の国内大会という位置づけで、それ以外の身体障害のある人のスポーツ大会を行いました。——日本からはどのような選手が参加したのですか。

中南 当時の日本人選手53人のうち50人、つまりほとんどの選手が治療を受けている病院かりハビリセンターから参加しました。自立して仕事をしている選手は自営業の数人だけで、それ以外はほとんど就業していない状況でした。しかも日本で大会が開かれることになったために急遽、車椅子バスケットボールチームを編成したような状態でしたから、海外チームと勝負にならなかった競技も少なくなかったそうです。アメリカチームとの対戦試合では、試合の途中で相手方が日本の選手にシュートを打つ練習をさせてくれたという話も残っているぐらいなんです(笑)。——海外選手と決定的に違っていたのはどのような点だったのでしょうか。

中南 代々木の選手村で交流会が行われたのですが、両者には大きな違



1964年東京大会での選手の移動
((公財)日本障がい者スポーツ協会 提供)

いがあることが分かりました。多くの日本人選手にとって生活の中心はリハビリセンターや自宅であり、治療やリハビリに携わる人以外とは交流せずに暮らしている人が多かったようです。けれども、海外から来ているほとんどの選手は仕事を持って、社会参加していました。海外と日本では、障害者の生活環境に対する国としての取り組み方が全く違っていて、日本はその時点ではかなり遅れていたわけです。その違いに日本人選手が大きな衝撃を受けたのです。そして、スポーツを通じて社会に参画しようという大きな動きが生まれました。

前回の東京大会は、身体障害者自身や社会のそうした変革のきっかけともなった大会だったのです。

障害のあるアスリートのために

——パラリンピック統括室では、どのような仕事をされていますか？

中南 組織委員会では、オリンピックとパラリンピックを統合的に準備しています。その中でパラリンピックには競技だけでなく、移動手段、選手村、警備など全てにおいて特有の課題がありますので、それらを解決していくのが私たちパラリンピック統括室の仕事です。



1964年パラリンピック開会式
((公財)日本障がい者スポーツ協会 提供)



中南氏(右)と談笑する田中(左)白根(中)両部会員

——2020年東京大会では、障害のあるアスリートは何名くらい来ますか？

中南 約4,400名の障害のあるアスリートが東京大会に参加すると想定しています。そのうち約1,800名が車椅子の方となる見込みで、どのようにして空港と会場、選手村、練習会場などをスムーズに移動できる環境を整えるかが大きな課題となります。さらに、今大会では既存の会場を多く活用し、1964年にも使った歴史ある施設(日本武道館など)も借りるため、どこまで改修ができるのか、改修できないところはどのようにして人のサポートで乗り切るかなどを検討しています。

また、パラリンピックをスムーズに運営するため、鉄道会社、バス会社、空港管理会社、航空会社、ホテル、選手村建設に関わるマンションデベロッパーなど、幅広い関係者にご協力いただいています。例えば、晴海に建てている選手村は大会後には約4,000戸の集合住宅になる予定ですが、大会時に選手たちが使いやすいよう、上りかまちをなくしてほしいとお願いしています。また、玄関から車椅子でフラットに入ることができ、その先の室内通路も移動しやすいように1mぐらいの幅を確保していただいています。

心のバリアフリー化

——パラリンピックに向けたバリアフリー化はどのように進んでいますか？

中南 昨年、内閣官房が中心になって関係府省のユニバーサルデザ

イン2020行動計画をとりまとめています。ハードだけでなく心のバリアフリーにも取り組み、いろいろな業界の方のご協力を得ながら準備を進めています。この大会を経験された関係者がその後も何かを企画し、建設し、法令を検討する際に、「ちょっと待って、これでいいのか？」と一度立ち止まって考えていただくこと、気づいていただくことも、社会の財産になると思っています。IPCが公表しているアクセシビリティガイドをそのまま適用できれば良いのですが、日本の法律を上回るような規準がたくさんあります。組織委員会としては推奨の基準と位置づけていますが、国内の現行法令が守られている施設は、使わざるを得ないこともあります。今、政府でバリアフリー法の見直しが検討されています。2020年以降も法令や条例にガイドラインの考え方が生かされることを期待しています。

——例えば、トイレなどは重要な施設ですね。

中南 ええ。今、バリアフリー法で2000㎡以上の建物では、男女共用の多機能トイレ(いわゆる誰でもトイレ)の設置が義務付けられています。このトイレには様々な機能(ベッド、ベビーチェア、オストメイト機能等)が設置され、どんな人も使えば一番混雑する場所となります。女子高生

が3人ぐらい着替えをしてから出てきたりするなど、目的外の使用も指摘されています。例えば、介助が必要でない車椅子使用者の場合、車いすが通る幅の引き戸にして、内部に転回スペースがあればいいのですし、ベッドやオストメイトは必要ありません。そのように、トイレの機能分散を図るべきと考えています。

——鉄道などの交通機関における課題は？

中南 三点あります。一点目は、駅の改札です。拡幅改札ゲートが徐々に増えてはきていますが、視覚に障害のある人からは有人改札の要望があります。二点目は、エレベーターの大きさです。国の遵守基準は11人乗りなので、車椅子が1台しか乗れないことが多く、長い順番待ちになります。しかも大きなキャリーバッグを持った観光客やベビーカーを押している家族連れも並んでいて、車椅子の方がなかなか乗れない状況が散見されます。この点について、ガイドラインで定めている17人乗り相当以上の大きさのものを設置してほしいという要望が強いです。三点目は、鉄道車両に車椅子のまま乗車できるスペースが少ないことです。現行法では、列車1編成に2カ所あればいいのですが、大会時には明らかに足りないです。これらのバリアフリーの取り組みは、各交通事業者の自主的な投資判断の中で優先的に実施していただいているのが実情です。

意識を変える

——公共の場でのマナー順守やサポートの促進についてはどのようにお考えですか？

中南 組織委員会では大会ボランテ

“車椅子で走ると絶対追いつかないわけですよ。パラアスリートが子供たちにとってヒーローになるんですね——中南”

ニアを8万人規模で集めることになっています。そういう方へのトレーニング機会を通じて、例えば階段で上がれる人はエレベーターではなく、エスカレーターや階段の利用を優先するよう伝える必要があると思っています。海外から来たパラリンピック関係者から、「日本人は本当にエレベーターが好きですね。後ろにベビーカーがいろいろ、車椅子がいろいろ、先着順で乗っていきますね。」と言われました。ヨーロッパでは考えられないことのようにです。そういうところから意識を変えていかないとはいけません。

駅のバリアフリー化だけを取り上げれば、海外に比べて日本は進んでいるほうです。が、利用者の意識に課題が残ります。ロンドンの2階建てバスには、1階部分に車椅子を2台停められるスペースが確保されています。ロンドン市交通局では、車椅子とベビーカーが乗り合わせた場合、ベビーカーはたたむか降りるといった優先順位まで定めているそうです。また、リオ大会時に見たのです

が、地下鉄ではドアの両脇の座席は全て優先席になっています。そこには子供は座りません。それは教育の賜物だと思います。東京大会の観戦を通じ、障害のある子供とない子供と一緒に遊べる環境なども考えていただき、インスパイアされる人がいればありがたいです。

——子供たちが、「こんなことができるすごい」「カッコいい」という感覚を持てるようになればいいですね。

中南 日本パラリンピック委員会が千葉市でウィルチェアラグビーの試合を開催した際、車椅子の選手が会場近くの小学校を訪問して、子供たちと交流しました。子供たちは全く遠慮なく、「指が動かなくてペットボトル開ける時どうするの？」など、いろいろ質問します。「こうやったらできるよ」と選手がやって見せると、小学生は驚きます。また、一緒に車いすに乗って体育館を走ると絶対選手には追いつかないわけです。パラアスリートが子供たちのヒーロー的存在になるのです。子供は心の垣根が低くて、そういう感覚が将来、社会を変えてくれるのではないかと期待しますね。

——テレビCMでも障害を持つアスリートが登場します。

中南 最近こそ、パートナー企業のテレビCMを中心にパラアスリートもCMに登場するようになりましたが、3年ぐらい前まで



2016年リオ大会での車いすバスケットボール
(公財)日本障がい者スポーツ協会 提供

は相当に難しい面がありました。変わったのが2012年のロンドン大会の頃です。ようやくオリンピックとパラリンピックの選手が並んでCMに登場する時代となりました。少しずつでも、国民全体で受けとめることをやっていきたいですね。

——次の東京大会に向けて、どういうことを意識されていますか？

中南 次世代へ続くレガシーを残したいと考えています。大会ビジョンとして、「未来への継承」ということを掲げています。何を残していくのかということも今後検討していきます。1964年大会のときに日本の選手が海外の選手を見て衝撃を受けました。2020年の大会では、日本国内外の多くの人に見てもらって、感動してもらいたいです。できれば、子供たちにたくさん見てほしいと思っています。そして将来振り返って、「2020年の大会から変わったよね」と言われる大会にしたいと思います。

(取材協力 白根 哲也 三菱地所株式会社)



パラアスリートと小学生との交流
(公財)日本障がい者スポーツ協会 提供

Projects:

会員企業百景

つむぐ歴史、つなぐ技術、むすぶ価値

日本工営株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室
高橋真理

日本工営は、1946年に創業した国内最大手の建設コンサルタント会社です。国内外の社会インフラ整備のプロフェッショナルとして、高度な専門技術と経験を背景にさまざまなプロジェクトを一つひとつ実現していく社会のパートナーとして日々その役割を果たしています。しかしながら、欧米に比べ、我が国では建設コンサルタントへの認知度は低いのが現状です。本稿では、建設コンサルタント業界の成り立ちと変化、そして今どんな可能性を掴み始めているか、そんなお話を日本工営という企業の「歴史」に重ね合わせて紹介させていただきたいと思います。

■創業者による戦前・戦中の巨大事業と戦後

日本工営創業者の久保田豊は、戦前、朝鮮半島の鴨緑江という国際河川の流域開発に土木技術者として取り組み、当時世界最大規模を誇る水豊ダム開発などを指揮していました。そして敗戦によりリュックサック一つで引き揚げてきた久保田と、彼のもとで仕事をしてきた土木、電気、農業、鉄道などの技術を持つ仲間たちが集まり、1946年に小さな会社が立ち上がりました。数々の実績

を背負っているものの、文字通り「技術」を売るしか生きる道がない技術者集団にとって、日本工営は引揚者援護会の側面を持っていたと後に創業者は回想しています。

■「工営」への想いとエンジニアリング・コンサルタント

戦後の混迷を極める時代にあって、久保田は、本来自分達が最も誇りを持つ技術をどのように生かしていったらいいのかという思いに至ります。そして、新しい国づくりに技術を捧げるとい目標を掲げ、社名にエンジニアリングサービスという意味を言い表すために「工」「営」という二文字をあてました。日本工営の経営理念「誠意をもってことにあたり、技術を軸に社会に貢献する。」は、この創業精神が現在まで脈々と受け継がれてきた、日本工営の背骨



ベトナム初のホーチミン市地下鉄建設プロジェクト



創業者 久保田豊

とも言える理念です。

建設コンサルタント業界は、日本工営のような引き揚げ技術者による創業に続き、土木設計事務所から発展した企業、そして産業分野の中から転換した事業者などによる複数の会社が立ち上がっていました。社会インフラの整備事業が急速に増大する中で、1959年には建設コンサルタント業が世間一般に確立するきっかけとなった「設計・施工分離の原則」が明確化し、建設コンサルタント業は現在までその役割が続いています。

■現在の建設コンサルタントの役割と社会インフラ市場

建設コンサルタントは社会インフラ整備に関する調査・計画、設計、入札補助、施工監理などの役務を提供するサービス業として、国内企業数は約4,000社、事業規模は約7,000



現在もラオスの電力を支えるナムグムダム

億円～1兆円規模まで増大しています。海外に目を転じるとその市場規模は膨大で、企業規模も拡大傾向にあります。

グローバルな視点で見る建設コンサルタント(海外ではエンジニアリング・コンサルタントというのが一般的です)は、プロジェクトの発掘から企画、立案等を行い、そのプロジェクトを経済、社会・環境など多角的に調査し、実現性を見極め、事業全体の予算を編成し、その予算のもとで一連の入札図書を作成や業者の評価など入札補助業務を行います。契約によっては工事全体を監督する立場として最終的に完成に結びつけるという、まさにプロジェクトサイクル全体に関与する役割を担います。事業予算全体のうちコンサルタント費用は数パーセントではあるものの、プロジェクトの遂行が円滑に遂行されるかどうか、延いては当該国の経済発展を促進させるかどうかはコンサルタントにかかっているとされる所以は、この上流から下流まで関わる業務の特性にあると言えます。

現在の社会インフラ市場に目を向けると、不測の自然災害、建物・構造物の経年劣化への対応に加え、新興諸国の人口増加や新たな都市の出現など、都市化進行に伴う環境変化対策が課題となっています。さらに、温暖化対策の国際枠組みである「パリ協定」の採択によりエネルギー政策の変革が起りつつあります。このような情勢下で、社会インフラの企画・計画段階の作業を担うコンサルティング企業の機能は一段と重要性を増しており、まさに久保田が70年前に目指した、広く国際社会のために技術をもって貢献するという熱意、そして、計画成就のために誠意

をもって対応することを改めて自覚し、ことにあたるべき時であると我々は考えています。

■日本工営が提供する価値とこれから

インフラ整備のニーズは、国および経済の発展段階により必要とされるものが変遷します。日本工営は国内をはじめ、世界各国がその時々で必要なインフラにおいて柔軟性を持って対応し、発展に貢献してきました。都市化の初期である「拡大フェーズ」には基本的なインフラ整備と産業成長の基盤づくり、「成熟フェーズ」ではインフラ長寿命化や環境への対応、そして現在の「高度化フェーズ」ではエネルギーマネジメントを含む都市部の人口集中対策などの経済効率を高めるインフラが必要とされています。今もって発展段階にある途上国と進歩し続ける先進国、それぞれのフェーズにおける課題を見極め、今後起こりうる新たな問題に対処するためには、蓄積した知見と経験を適用しながらも日々技術を磨きつづけることが必須です。日本工営では、世界に通用するトップレベルの技術力向上のために、早期から研究開発施設である中央研究所を茨城県つくば市に設置し、日本工営グループを牽引するための高度技術の開発を進めています。また、人的資源への投資に最大の力を注いでいます。コンサルティングは、人の頭脳と紙と鉛筆(今はPC)があれば仕事となる世界ですが、その分高度な知見を必要とされます。社員ひとりひとりの技術力を底上げすることで会社全体の総合力を



ウエストミンスター宮殿改修事業をBDP社が受注

向上させることが変わらぬ命題です。

コンサルティングとしての業務領域の多様性を広げるため、国内外の企業買収や連携も積極的に進めており、2016年には英国の老舗建築設計会社BDPを買収しました。調査・設計会社の世界市場を見ると、2016年度の国際売上高は約760億ドル(約8.5兆円)、うち分野ごとにおいては建築と運輸交通分野が半数を占めていることから、都市化に伴う開発が増加していることが窺えます。これから増えると想定される新たなニーズに適應するため、土木と建築の組み合わせによって新しい価値を生み出していくようグループ全体で取り組んでいます。

■おわりに

日本工営グループの原動力は、言うまでもなく人と技術です。コンサルタントに問われるのは「人間力」、「専門技術力」、「コミュニケーション力」、「マネジメント力」、そして、その地域に貢献しようとする「熱意」。我々は創業以来70数年にわたり、変わらずその情熱を燃やし続け、途絶えることのない技術開発の意欲をもって持続的な社会の発展に貢献するという矜持を貫いています。これからも、社会とともに未来を拓く志をもって事業にあたってまいります。

Column:

My Elder Colleague and My Younger Colleague



清水建設株式会社

常務執行役員 土木東京支店長

杉原克郎 (評議員・企画委員)

Elder

清水建設株式会社

LCV事業本部 インフラ運営事業部

グループ長

王尾英明 (広報部会幹事長)

Younger

王尾(以下O) 今回、こんなタイトルの依頼を受けましたが、杉原さんと私は、会社では上司・部下だったことは一度も無いですよ。計交研の企画ではいつも一緒ですが……。

杉原(以下S) おお、いつもごめんね(笑)まあ、計交研では上司部下みたいなものかもね。

O いえいえ、楽しくさせていただいています。さて、杉原さんと計交研の関わりはどのようなものですか。

S 自分は土質研の卒業生だけれど、当時会長の中村英夫先生にお誘いを受けて出席するようになったんだ。先生の個別勉強会にも呼んでいただいたけど、それは錚々たるメンバーでね。やはり産官学の幅広いジャンルの人と情報交換できるのが計交研のいいところだよ。

O 本当にそうですね。私は今、新規事業の部署にいますが、他業界の方々の意見は非常に勉強になり

ます。ところで現在、支店長として多くの部下をお持ちですが、常々どのような事を期待していますか。

S それは、主人公として主体的に動くことだね。「俺が全てやるから支店長は現場に来るな!」というくらいの気概のある人間であって欲しいと思っている。

O そのような数多くの部下に、どのような手段でご自身の考えを伝えているのでしょうか。

S 若手、部署長、協力会社などに分けてフリートークをしているね。もう3巡目に入ったかな。「怒らないから好きなことを言え」と言ったら、「社宅が遠いので何とかして下さい。」なんていうのもいたけど(笑)でも実際の生の声を聞くことが大切だと思っているんだ。

O 逆に上司で印象に残っている人はいますか。

S 入社5年目の現場の所長が鬼のように厳しい人でね。でも、今の自分はその人に鍛えられたようなものかな。口癖だった「忙しければ忙しいほど飯を食え!」というフレーズは自分も方々で言って回っている。

O 私もちょうど入社5年目頃の現場所長の教えがその後の自分の基礎になりました。やはり教わる側にも感受性の高い時期があるのかもしれ

ませんね。

話は変わって、私の趣味はランニングなのですが、杉原さんもランナーですよ。私は10年前、福井県の現場で単身赴任している時に、時間に余裕が出来たので始めたのですが、杉原さんはいつ頃、どんなきっかけで走るようになったのですか。

S 大学の4年の時、研究室の同期だった埼玉大学の桑野先生に、「青梅マラソンを完走したら焼肉を奢ってやる」と唆されて走ったのが最初だね。当時世界最速と言われた瀬古選手とデッドヒートの上、約1時間差で惜しくも負けたけど(笑)実際は25kmでヘロヘロになってしまって。それ以来奮起して走っているんだ。

O 今でもフルマラソンをサブ4というのはすごいですね。毎朝出勤前に走られていると聞きましたが、雨の日や、飲んだ次の日も走っているのでしょうか。私は朝が弱くて、週末ランナーですが……

S 必ず走るようにしているね。やはり何事も継続することが大事だと思っている。計交研の活動も二人で継続して参加していこう。

O そうですね。計交研の上司として今後もフォローをよろしくお願ひします(笑)。

27年秋の見学会(宮城・福島)幹事とその補佐として参加内容が盛り沢山で、たいへんハードなスケジュールでした。(左端が杉原と王尾です)



Column:

至福の時間



東日本旅客鉄道株式会社

執行役員 鉄道事業本部 営業部長

阪本未来子

早熟だった私は小学生の頃 Bay City Rollers に夢中になり、彼らの出身地であるスコットランドに「絶対に行く！会いに行く！」と、宣言。なげなしのお小遣いで当時高価だった旅行雑誌を買い集め、何度も読み返しては旅行プランを立てたものでした。Bay City Rollers を卒業して Queen や Led Zeppelin 等々に進級したあとも、何故かスコットランドへの愛だけは残り、でも、未だ行けず、想いは募るばかり。

それからずいぶんの時が経ち、私が大宮支社営業部長時代のこと。着任の挨拶で訪れた奥日光、中禅寺湖～戦場ヶ原～湯ノ湖の景色を見て「わっ！これは！」と、びっくりしました。片思いし続けているスコットランドの風景が目の前にあるじゃないですか。総天然色のあのガイドブックにあったそのものの風景が。とはいうものの、数回訪ねると、スコ

ットランドの擬似ではない、奥日光そのものの魅力に心惹かれるようになりました。

それから、私にとって最高の『至福の時間』は、家族と一緒に奥日光をドライブすること（私の定位置は助手席です）。大好きな風景を楽しみながらお気に入りの曲を聴き、時には歌い、シャウトします。ゴールデンウィーク明けからの初夏は、まさにベストシーズン。“日々刻々”変化する新緑のグラデーションと斜面を彩る華麗なピンク色のアカヤシオとの競演を愛でながら、曲は【Have You Never Been Mellow/Olivia Newton-John】。中禅寺湖畔に到着した瞬間に景色が一変します。抜けるような青空と男体山のコントラストを眺め、ふと中禅寺湖に目をやると、水面に映る男体山からは荒々しさが消え、何と美しいことでしょう。そこからのお供は【Stars /Simply Red】、曲が終わる頃、知る人ぞ知る魅力的エリアに到着します。

そう、中禅寺湖の東岸には“バルコニーに立つとアーネスト・サトウが愛した、絵のような中禅寺湖の風景が楽しめる「英国大使館別荘記念公園」と“湖畔から眺めると自然と

の一体感とともに美しくモダンな個性を発揮している「イタリア大使館別荘記念公園」があります。（聞くところによると、今年6月に今も現役使用されているベルギー王国大使館別荘が初めて公開されるそうです。）ここでは、湖から聞こえる静かな波の音と小鳥のさえずりをBGMに、国際避暑地として夏は各国の社交場であった往時に想いを馳せてはいかがでしょうか。散策しながらそれぞれの個性を堪能していると、あっという間に幸せな時間が過ぎていきます。

さあ、ドライブも終盤です。夕焼けに染まる中禅寺湖を左手に見ながら菖蒲ヶ浜へ向かう際には【Old and Wise/The Alan Parsons Project】を選曲しましょうか。日が暮れて空がロイヤルブルーに染まるとともに山の稜線が浮かび上がるひと時を、情感を漂わせたボーカルと詩が一層ドラマチックに盛り上げます。

余韻に浸りながら、宇都宮で車を返して（ここがミソ♪）、東北新幹線の車内で乾杯。運転の労に感謝し、今日の収穫と次の攻め所をディスカッションする、この時間がまた『至福の時間』ですね。

初夏の中禅寺湖と筆者(下)
イタリア大使館別荘記念館
(右)



Reports:

行事報告

特別講演会

「橋の臨床成人病学入門の概要」

1月19日(金)、東京都市大学学長の三木千壽先生による特別講演会が開催されました。昨秋出版されたばかりの「橋の臨床成人病学入門」の概要を、著者である三木先生ご本人から聞ける絶好の機会とあって、金曜の夜にもかかわらず100名近くの方に参加いただきました。

政策研究大学院大学の家田仁教授より「徹底した現場主義・本物主義の人」と紹介された三木先生は、「適切な点検・診断・措置により、構造物をプラス100年もたすことができるのではないか」という主張のもと、ご自身が目にされてきた幾多の国内外の事例を紹介。臨床から学ボインフラ老朽化問題の入門という名のとおり、写真をふんだんに使い、それ

ぞれに潜む課題や示唆を丁寧に解説していただきました。「リプレイスに伴う社会的損失」というインフラの普遍的宿命に対し、補修・補強だけで強度を保つという挑戦がなされている「“100年”新幹線」プロジェクトを、「技術の勝利」と表現されていたことが非常に印象的でした。

コメンテーターとしてお越しいただいた東日本旅客鉄道(株)構造技術センターの野澤伸一郎所長も、計画・



三木千壽学長

製造・維持管理といったライフサイクルスパンで継続的に老朽化対策に取り組むことの重要性に言及され、三木先生のアドバイスを糧に引き続き技術の研鑽に励みたいとお話されました。講演会後に行われた懇親会でも、適切な点検・診断技術のビジネス化といった議論に華が咲き、賑やかな夜となりました。

広報部会員

小林香咲(みずほ総合研究所)



野澤伸一郎所長

第5回イブニングセミナー

「ここまで進化した天気予報の技術! ~社会はこの進化をどう活かすか?~」

2月19日(月)、日本大学駿河台キャンパスにおいて、「ここまで進化した天気予報の技術! ~社会はこの進化をどう活かすか?~」をテーマに、第5回イブニングセミナーが開催されました。

まず、気象庁気象研究所 環境・応用気象研究部 部長の高藪出様より、気候変動予測の実態と社会への活用可能性についてお話しがありました。「ダウンスケーリング」や「アンサンブル実験」という手法をご紹介いただき、これらによって地域の詳細な気候予測や予測不確実要因への対応が可能になっていることをご説明いただきました。さらに、短期間の大雪の予測や、気候変動が竹林の生育可能域に与える影響の研究と

いった適用事例をご紹介いただき、これらの事例のように気候変動予測情報を社会に活用する上では、気候変動予測研究者と、その影響評価を行う研究者や政府・自治体・国民等の「ユーザー」のコミュニケーションが重要であることを強調されました。

続いて、東京大学工学系研究科の知花武佳准教授に、気候変動予測情報の活用の観点からコメントを頂き、政府、自治体、農家、一般市民



高藪出部長

など、気候変動予測情報を受け取る側の階層ごとに情報の伝え方を工夫することが必要である、といったご指摘がありました。

最後の質疑応答でも、市民の情報活用、研究者間のコミュニケーション、研究手法とそのコストといった多様な質問が挙げられ、活発な意見交換が行われました。

広報部会員

清 衣里奈(みずほ総合研究所)



知花武佳准教授

Opinion:

視点

アルジェリア東西高速道路工事を通じて感じたこと

日本のゼネコンによる最大級のインフラ受注として注目された「アルジェリア東西高速道路・東工区」は非常な苦戦を強いられる結果となりました。本稿では、日本の建設産業の今後の海外展開につながる観点で、本工事を通じて感じたことについて述べたいと思います。

アルジェリア東西高速道路の概要

北アフリカのアルジェリアと聞くと砂漠を思い浮かべる方も多いと思いますが、我々が施工した地中海沿岸地域は、比較的温暖な地中海性気候で、日本の気候とも近く、結構緑も茂っていました。

アルジェリアは東にチュニジア、西にモロッコと国境を接し、東西高速道路は両国との国境間を結ぶ全長1,200kmの片側3車線、上下線合わせ6車線の道路です。工事は東、中、西の3工区に分けて発注され、日本のゼネコンJVは、このうち東工区(チュニジア国境から延長400kmの区間)を2006年9月に受注しました。土工量1億2千万m³、コンクリート量220万m³、3か所のトンネルもある大工事でした。当初工期は40カ月という短期間であり、最盛期には一日当たり日本人800名を含む約28,000名が就労しました。本工事では、着工後、多くの技術的課題が顕在化しました。例えば、設計の不備、測量基準点の

不在、アルジェリア特有の地質、骨材調達の困難さなどです。さらに、工事総額への上限額適用、一方的な低査定率と支払遅延、追加契約の遅れなどの契約面での課題、また、治安面での制約もあり、予定どおりに工事は進捗しませんでした。

最終的には工事中断を余儀なくされ、国際仲裁を申し立てるまでとなりましたが、在アルジェリア日本国大使のご尽力を契機に、発注者との和議協議を開始し、2016年7月、約80kmの未完成区間を残し、友好的な契約解除となりました。

海外工事の成功に最低限必要なこと

本工事に携わり、海外で最低限必要と感じたことについて述べます。

一つ目は、語学力に裏打ちされたコミュニケーション力です。本工事では、契約言語のフランス語での十分なコミュニケーション力を持つ工事関係者が少なく、苦戦の主な要因の一つでした。また、重要な局面での交渉には優秀な通訳が大事だと痛感しました。

二つ目は、十分な現地調査とそれに関連する技術仕様の理解です。本工事で多用されたフランス規準は、日本規準と技術的枠組みが異なる部分もありました。このため、現地調査の不足に加え、規準の相違点の理解や対応のために大変な労力を要しまし



田代 民治

鹿島建設株式会社

代表取締役副社長執行役員

1971年東京大学工学部卒

た。他方、例えばコンクリートや盛土、発破やプラント等については、案外、自身のダム工事での経験が役に立ち、規準にかかわらず、土木技術者としての基本的知識が重要であると感じました。

三つ目は、契約条項及び現地法規の理解です。「誠意を見せれば通じる」というような精神論に陥らないように努め、工事後半以降、建設係争に実績のある国際弁護士をアドバイザーとし、都度の意思決定に契約・法的視点からの助言を得るようになったのは有効でした。

四つ目は、日本国政府による支援です。発注者である公的機関等の恣意的対応には、民間企業単独での反駁は難しく、日本国政府による支援は非常に心強いものでした。また、現地政府機関の長と面談する機会が多い日本国大使による仲介が係争解決の契機になったことは前述のとおりです。

日本の建設産業の海外展開に向けて

海外工事は、国内と異なり、少人数の現場体制で、各個人の負担も大きくなります。これを超えていくためには、各組織及び各個人が実力を涵養するとともに、今後は産官学が力を合わせ、「オールジャパンによるインフラ輸出」に取り組むことも重要だと思えます。日本の建設産業の一層の海外展開に向けて、本稿が読者諸氏のご参考になれば幸いです。

2月18日にご逝去された鈴木忠義先生に、篠原修先生から追悼文をご寄稿いただきました。鈴木先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

鈴木先生がパイオニアとなって新たに切り拓いた分野は、観光と景観であった。晩年に最も力を入れていたのは計画の哲学だが、これは学問としても後継者から見ても未完に終わった。景観グループの一番弟子は中村良夫で、筆者は4番目の、教えを直接に受けた事のない番外の弟子に当たる。そういう弟子故に、以下は紋切り型からは些か外れた追悼文となることをお許し願いたい。

鈴木先生の専門は観光と景観であると述べたが、出身はれっきとした土木である。土木工学科を卒業した鈴木がどういう因縁で観光と景観を志すに至ったのか、様々の臆説はあったものの、納得のいく説明を聴かない事久しかった。もう10年以上前になるが、誰かが鈴木以下のキーパーソンにヒヤリングして、景観工学創成期の事情を書いておかねば本当の事が分からなくなると考え、「ピカソを超えるものは」にまとめ出版した。鈴木が観光と景観を志すに至った当時の社会情勢と鈴木先生の心境を以下に要約する。

鈴木先生の出身地は向島で、中学は旧制府立七中である。卒業して目指すのは一高か浦和高校であった。何故そうではなくて田舎の弘前高校だったのか、こういう事は面と向かつては聞きにくい。以下、メールでのやりとり。「現役の時はお浪人、一浪して弘前」が鈴木先生の答え。同級生に映画監督の鈴

木清順、二年後輩にNHKのアナウンサーだった鈴木健二。皆東京人である。鈴木に言わせると、それなりの学校に行っていないと「しっばられちゃう(軍隊に引く張られる)」時代だった。最も入り易い高校は弘前と高知だったという。弘前では地元出身の同級生はなんと一人だった。吃驚したのは、大阪にいた司馬遼太郎は弘前を落ちて軍隊に引く張られたのを知った時だった。折角入った弘前も短縮2年で卒業させられ、鈴



鈴木忠義先生の観光と景観

篠原 修

GSデザイン会議代表 東京大学名誉教授

森林土木を専門とし、名著とされる「橋梁美学」を著すと同時に、上高地の河童橋の設計者としても知られる。この加藤が力学の勉強に来ていたのが土木の山口昇であり、運動会で知り合ったのが八十島だった。加藤はスキー山岳部、八十島はアイスホッケーと総務。君の処から面白い男が来ているよ、ということで第二工学科のことは知らなかった八十島も、鈴木という変わった後輩が林学にいることを知る。

鈴木は加藤に付いて観光道路の勉強を始め、続いて田村剛の鞍持ちとして国立公園を巡り始める。田村は林学の出身で国立公園の父と称された人物だった。この二人の先生の下で実学と勉強に励んだ昭和二十年、三十年代の日本は、敗戦で軍備のみではなく重工業も解体させられた時代だった。財界は真面目に観光立国を唱え、理想とされた国はスイスだったのである。鈴木はこのような時代背景と自身の勉学環境によって、観光を第一に、第二に観光を支える景観を志すに至ったのである。

鈴木は徴兵の危険から弘前にドロップアウトし、東京には復帰したものの身体に自信が持たずに、再び土木からドロップアウトした。この二重のドロップアウトの末に選り、きつい表現をすれば、頼みの綱として続いたのが観光と景観だった。伊達や酔狂で選んだ訳ではなかったのだ。やがて都市工学科が出来、八十島はそれを前提に鈴木を土木と呼び戻す。以降、都市工、東工大の土木と社会工学、東京農大造園、鈴木先生の始めた分野の多くの弟子どもは先生の奥さんの誇りだった。

文献 1) 篠原修(2008)『ピカソを超えるものは一評伝 鈴木忠義と景観工学の誕生』技報堂出版

2) 正師鈴木忠義先生を囲む有志一同編(2008)『鈴木忠義先生の言葉』巻一 巻二 巻三

当会会報2017年9月号にて鈴木忠義先生にご協力いただいた座談会記事を掲載しておりますので、HP等でご覧ください。